

平成20年10月1日

安心と希望の介護ビジョン

# 地域介護基盤の構築を支えるために ～地域力の向上を目指した取り組み～

稲城市長 石川良一

# 実施すべき事業の方向性

インフォーマルサービスが脆弱であるため、  
公的サービスが必要範囲を超えて提供



インフォーマルサービスへの支援が効率的  
(例えば、高齢者世帯のごみ出し、電球の取り替え等は地域コミュニティで解決)



地域づくりの観点から  
拠点の整備、コーディネーター支援等が重要

# 地域力を高める具体的事例

- ・ 町内会、団地自治会等が、相互援助の観点から、主体的に地域見守り支援を実践し、成功している例がある（松戸市、立川市、高浜市）。
- ・ 地域住民が主体的に関わることにより、「自助、共助、公助」の役割分担の考え方が地域に浸透する。
- ・ 地域コミュニティの再生や支援が地域力を高めることになる。



## 地方分権（地域重視）を進める稲城市の事例

- ア 介護支援ボランティア制度
- イ 住民主体の介護予防地域活動

# ～稲城市～

人口 81,134人

男 41,250人

女 39,886人

高齢者人口12,528人

(高齢化率 15.4%) 平成20年4月1日現在



★東京都心の新宿から西南に約25km、南多摩地区の東端に位置しています。

★面積は 17.97km<sup>2</sup>(東西、南北とも約 5.3km)です。

# ア 介護支援ボランティア制度

## 【直面している課題】

- 団地地区を中心に、地域のコミュニティの力を高める必要が生じてきた。
- 社会参加活動への参加を望む高齢者が増えてきている。

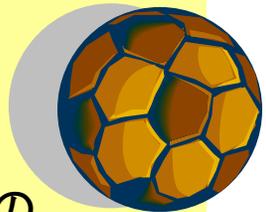
## 【求められる施策】

- 1 高齢者自身の介護予防につながる社会参加活動(自助)を支援すること。
- 2 元気な高齢者による介護者等への支援ボランティア(共助・互助)を褒賞・奨励すること。
- 3 上記の結果、地域支援事業費、介護給付費等の費用を直接・間接的に抑制すること(給付費等の抑制)。

## 【稲城市の新たな地域支援事業】

### 「介護支援ボランティア制度」

- 高齢者の社会参加を支援し、介護予防の効果を期待するもの。
- 元気な高齢者を増やす取り組み。



# 介護支援ボランティア制度とは？

- 高齢者の介護支援ボランティア活動実績等を評価したうえでポイントを付与し、その高齢者の申出により、そのポイントを換金した交付金を交付する制度です。

介護支援ボランティア活動でスタンプ押印をもらう。



スタンプを集めてポイントに換える。



申請でポイントの交付金(5,000円)を受け取ることができる。

- 当面、稲城市では、高齢者が介護支援ボランティア活動実績に応じて付与されたポイントを活用し、実質的な介護保険料負担の軽減を行います。

# 介護支援ボランティアの登録状況等

(平成20年8月31日現在)

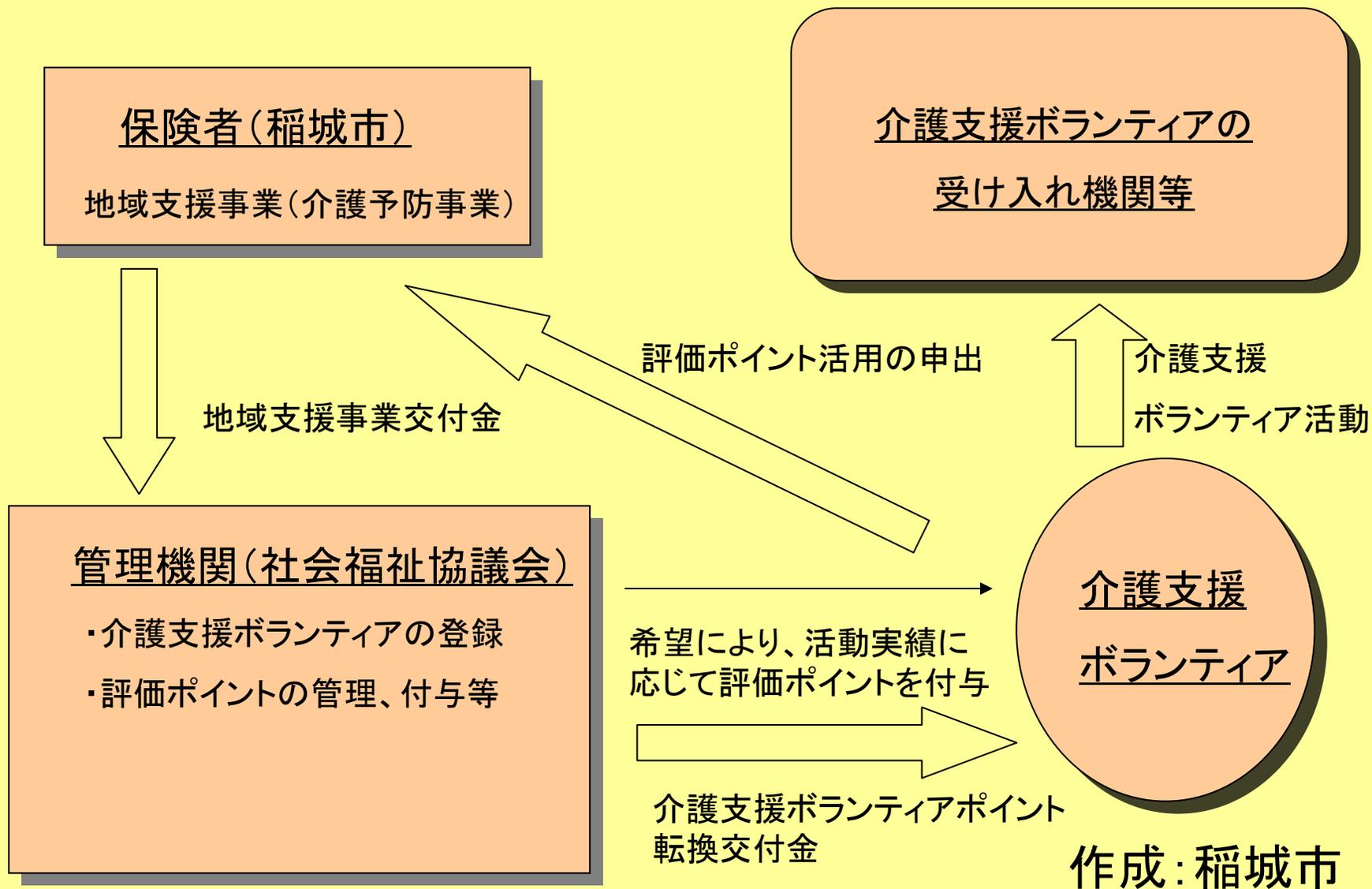
介護支援ボランティア登録者数 273人

最高齢93歳、90歳以上4名、要支援者4名

受け入れ機関等 15団体



# 稲城市介護支援ボランティア制度の実施スキーム



# 1 デイサービス利用者への昼食の盛り付け

## ・配膳・下膳(ケアハウス)

- デイサービス利用者へ昼食の盛り付けや配膳・下膳を行います。



## 2 筋力向上トレーニング教室での見守り・号令等（老人保健施設等）

- 筋力向上トレーニングを行なうため、使用者の体格に合わせて器具を調整します。
- 一緒に号令をかけながら安全を見守ります。



### 3 小物作り等の指導や話し相手 (特別養護老人ホーム)

- 高齢者の方々へ小物作り等のレクリエーションの指導をしたり、話し相手をします。



## 4 裁縫ボランティア、乾いた洗濯物の整理 (特別養護老人ホーム)

- 裁縫ボランティアとして、入所者の衣類のボタンつけや手提げ袋を作ったり、乾いた洗濯物を折りたたむ活動を行います。



## 5 小物作り等の指導やレクリエーションの指導(ふれあいセンター)

- 市内各地域にある「ふれあいセンター」では、地元の高齢者の方々へ小物作りの指導やレクリエーションの指導をします。



## 6 お誕生会等の会食会の食事盛り付け、配膳等(NPO法人)

- 地域の高齢者の方々へお誕生会等の会食会を開催するため、食事の盛り付けや配膳等の準備をします。



# イ 住民主体の介護予防地域活動

- 地域住民の主体的な活動支援
  - 「介護予防推進員」の育成
    - 地域で「おたっしや21」を実施し、『地域』と『在宅介護支援センター』とのパイプ役
    - 介護予防に関する講演会やイベント等でのサポート
  - 「筋トレボランティア」の育成
    - 筋トレ修了者が、地域で社会参加をする受け皿として機能
    - 教室運営のサポート役
  - 「講師・サブリーダー」の育成
    - 地域展開型転倒骨折予防事業の指導者としての役割
    - 地域で活動を行なっている自主グループの支援
- 社会資源の整理
  - 「稲城市 社会資源マップ」の作成
    - 市内にて、介護予防に関する活動を行なっているグループを掲載



# 転倒骨折予防教室①



# 転倒骨折予防教室②



# 転倒骨折予防教室③



# 口腔機能向上プログラム実施風景



# 自主グループ 【押立】



# 転倒骨折予防 【さわやかクラブ】



# 稲城市介護予防大会の実施

- ✓ 自主グループ活動の支援
  - ✓ 参加人数:220名(ボランティアなど含む)



稲城市



# 主役は地域住民(社会参加のきっかけが重要)





稲城市

# まとめ

- 地域住民からは、「住み慣れた地域にいつまでも安心して住み続けることができること」が求められている。
- これはそこに住む住民が力を出し合って、自ら創り上げていくことが基本である。
- 介護サービスでは、地域の介護従事者がその地域に住む要援護高齢者を支えている現状を踏まえ、地域重視の観点から、介護基盤の整備を行うことが重要である。
- コミュニティ再生や地域活動を支援する仕組みに重点を置くことが、安定した介護基盤の構築に資するものであると考える。
- 「自助・公助」から「自助・共助・公助」へのシフトが重要である。